

# ストレンナ 2019

テーマ紹介

わたしの喜びがあなたがたの内にあるように

(ヨハネによる福音書 15 章 11 節)

## 聖なる者になろう

### I- 神は私たちが聖性へと呼ばれる

教皇フランシスコが使徒的勧告で、最終目標を見失う誘惑に陥らずに幅広い視野をもつよう私たちに助けながら、キリスト者の生活の本質的なことに焦点を当てようとしているのは明らかです。そのために教皇は、現代の状況の内に具現化される聖性への呼びかけを投げかけ、私たちに助けようとしています。現代の状況にはリスクや挑戦、また人生の旅路で神が差し出されるすばらしい機会もあります。「わたしの喜びがあなたがたの内にあるように」(ヨハネ 15・11)。

1. 聖書は、聖なる者であるようにと私たちに招きます：「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」(マタイ 5・48)、「聖なる者となれ。わたしが聖なる者だからである」(レビ記 11・44)。

- 聖性は賜物、任務、課題です。聖性は皆のためのものです。なぜなら、私たちのための神の基本計画に呼応するものであるからです。聖人になることは、自分自身から乖離かいりすることでも、兄弟姉妹と距離を置くことでもなく、深く充実した(そして時に困難な)交わりの体験のうちに、私たち自身のいのちを満ち満ちて生きることです。

2. 近くにおられ、ご自身をキリストのうちに顕される神：「わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」(ヨハネ 15・5)；「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである」(ヨハネ 13・15)。

- 聖性は倫理的完全さの理論ではありません。イエスのいのち・生き方にかたどられるいのち・生き方です。イエスの生き方のいくつかの特質は、身近で、具体的で、美しく、すべての人にとって心躍るものでありながら、人が考えてもみない、あるいはほとんど考えることのないものです。

### II. 聖なる生き方への呼びかけはすべての人に

3. 幾世紀にもわたり、数多くの男性、女性たちが聖性を生きてきましたが、聖人と宣言された人はわずかです。その例はたくさんあります。

→ 大切なのは、聖なる者であることです。聖なる者と宣言されることではありません。列聖された聖人たちは教会の正面外観にたとえられますが、教会の中には多くの貴重な宝物があり、それは人目に触れないままです。ストレンナは、この内側のより目に見えない部分を発見し、その目に見えない部分への渇き、郷愁を育むよう私たちに招きます。

4. 「お隣の聖性」と聖性への普遍的な招き：聖フランシスコ・サレジオ、ドン・ボスコ；第二バチカン公会議：ドン・ボスコの学び舎のヤン・ティラノウスキーとカロール・ヴォイティワ。

### III. 若者がこの世で、そして次の世で幸せであることをドン・ボスコは願う

5. 1884年5月10日に書かれたローマからの手紙の冒頭、ドン・ボスコは子どもたちに次のように書き送っています：「私にはただ一つの願いがあります。君たちがこの世で、そして次の世でも、幸せであるのを見ることです」。

この言葉は、地上のいのちの終盤に、あらゆる時代の全世界の若者にドン・ボスコがあてたメッセージの心を要約しています。今日の、明日の、あらゆる時代のすべての若者が夢見る目標として、若者たちが幸せであることをドン・ボスコは望みます。それだけではありません。「イエスと幸せのためのイエスの提案、すなわち聖性だけが差し出すことのできるあの‘さらなるもの extra’は、永遠のうちに見いだされます。」それは、すべての若者のうちに燃える「永遠」への深い渇きに対する答えです。

世界、すべての国から成る社会は、この「永遠」と永遠の幸せを示すことができませんが、ただ神だけが、それをおできになります。

ドン・ボスコにとり、これらのことすべては非常にはっきりしていました。ドン・ボスコが若者にあてた最後の言葉はこれでした。「子どもたちに伝えてほしい、天国で皆を待っていると」。この意味で、私たちは“Da mihi animas, cetera tolle”を理解します。

### IV. 愛する若者の皆さん、イエスこそ、皆さんが探し求めている幸せです

6. これは、第15回世界青年の日大会・ワールドユースデー（2000年、ローマ、トル・ヴェルガタ）の夕の祈りの際、聖ヨハネ・パウロ二世が投げかけた挑戦でした。教皇は世界の若者に言いました。「**幸せを夢見るとき皆さんが探し求めているのは、実際、イエスなのです**；皆さんが見いだす何ものにも満足できないとき、イエスは皆さんを待っておられます；イエスは、皆さんが心をひきつけられる美しさです；満ち満ちたいのちへの渇きを皆さんの内に呼び起こすのはイエスです。妥協で満足することのないようにさせる渇きを；偽りの生き方の仮面を脱ぎ捨てるように促すのはイエスです；皆さんの心の中に、最も真実な選択、ほかの人々が打ち消そうとするその選択を読み取られるのはイエスです。人生の中で何か大いなることをしたいという望み、理想を目指す意志、生ぬるい凡庸さに縛られ、そこにとどまることの拒否、謙遜に、忍耐強く、自分自身や社会をより良いものにし、この世界をより人間らしく、兄弟愛のあるものとするために献身する勇気を目覚めさせるのはイエスです。」

### V. 「聖なる者となる望みを、それが必要だということを、僕は自分の内に感じる」（ドメニコ・サヴィオ）

7. 聖性について語るサレジオの文献：

→ サレジオ会、サレジアン・シスターズ、サレジアニ・コオペラトーリ、サレジオ家族の多くのグループの会憲。

→ 会の教導（サレジオ会）におけるさまざまな聖性への呼びかけ。

→ サレジオ霊性が語るべきものを豊かに持ついくつかの点について：

- 聖性とは、人間的諸側面が見事に花開くことです。聖人を目にするとき、そこにはまことの男性、まことの女性がいます。（参照 リナルディ神父の VDB への言葉：女性らしさ etc.を備えた、まことの女性でありなさい。）
- 聖性と共同体：共に聖なるものとなる。
- 共にある聖人：若者のための聖人、しかし何よりも若者と共にある聖人。ある意味で、ドメニコ・サヴィオがドン・ボスコに次いで列聖された最初の聖人となったのはとても理にかなっています。すなわち、サレジオ会員の聖性の実りは若い聖人であり、若者の聖性は、サレジオ家族のメンバーの聖性を指し示すしるしです。
- 聖性と傷ついた家庭；聖性と個人的限界（フランチェスコ・コンヴェルティニ、イグナチオ・ストウクリーなど）；経歴、歴史、社会の限界の中から生まれ出る聖性……聖性を阻むことのできる個人的状況、経歴、歴史の状況はありません。
- 若者の聖性……若い聖人と聖人たちの若々しさ（次期シノドス 作業用文書 214 項参照）

## VI. サレジオのカリスマのうちに生きられる聖性

8. 列福列聖調査中の聖性のメッセージは、サレジオのカリスマを読み直し統合するのを助けてくれます。

→ 宣教の次元：厳密な意味での宣教師；故国に“帰った”宣教師たち（ストウクリー）；宣教師となるよう提案されながらとどまることを選んだ人々（ゼマン）……

→ サレジオの司教の聖性

→ 明白に表されるマリア的な香りのある聖性（美しい数々の扶助者聖マリアの像、T・ゼマン、ストウクリー、ルストーザなど）

→ 創立のカリスマをいただいた聖性

→ サレジオ会修道士の聖性（ザッティ、スルジ、サンドルなど）

→ ドン・ボスコ生誕 200 周年以前、そしてその後の殉教者たちのメッセージ（サンドル、ゼマン、ロドルフォ神父とボロロ・シモン、コミニ……）

→ “cetera tolle”の受肉である、いけにえとしての自己献身の次元。アウグストゥス・チャルトリスキー、アンドレア・ベルトラミ、アロイジオ・ヴァリアラ、アンナ=マリア・ロザーノ、ラウラ・ビクーニャ、アレキサンドリーナ=マリア・ダコスタなど。この次元はさまざまな形で表されます：

- 身体的な苦しみ、身体的な不自由を余儀なくされること
- 共同体のダイナミズムから引き離される、あるいはそれを取り去られること
- 長上に理解されないこと（ヴァリアラ、ゼマン、デッラトッレなど）
- 外的な制約のために（ビクーニャ、ロザーノ）あるいは健康上の理由のため（ザッティなど）自らの計画を実現できないこと
- 出身家庭の状況のために負う苦しみ（ラウラ・ビクーニャ、ブラガ、悲劇的な状況で父親を失ったストウクリーなど）
- キリストの苦しみへの目に見える形での参与、一致（アレキサンドリーナ、ヴェラ・グリータなど）
- サレジオの聖性と観想……

## VII. 「聖性にあなたも呼ばれている！」とは？

- 聖性は身近なこと、現実の、具体的な、可能なことです。実に聖性はすべての人の基本的な召命です。

- 聖なる生き方をすることは、難しいことではありません；実に、やさしいことであり、聖性の旅路の後、神は私たちが天で待っておられます。「聖人たちは、臆病であったり、気難しかったり、辛辣であったり、あるいは憂鬱であったり、物悲しそうな顔をしているのとはほど遠く、喜びにあふれ、温かいユーモアでいっぱいです」（使徒的勧告 *Gaudete et exsultate*, 122）。
- 聖性の道は十字架の次元を避けて通ることはできませんが、喜びに満ちた道でもあります：「ここでは、とても幸せであることが聖なる生き方になるんだ。」
- 聖性は、私たちが務めや関心、愛情から引き離すことなく、それらを愛徳のうちに統合します。聖性は愛徳の完成であり、したがって、愛され、愛するという人間の根本的な必要に呼応します。人間らしくなればなるほど、聖なる者になります。なぜなら、「人生に使命があるのではなく、人生は使命なのです」（*Gaudete et exsultate*, 27）。
- 聖性は“余剰のもの”、選択肢の一つ、特定の人に限られた目標なのではありません。神のご計画と賜物にしたがい、人生を満ち満ちて生きることです。したがってそれは、人と成っていく道 **a path of humanisation** です。真の霊的生活は、あらゆる人間的な事柄を花開かせることです。  
「私たちがひとりであるときも、奉仕のときも、個人の生活と福音宣教の働きのどちらも満たすことのできる聖性の精神 **a spirit of holiness** が必要です。あらゆる瞬間が、自己犠牲の愛の表現として主の目に映るように。このようにして、私たちの人生のあらゆる時を、聖性において成長する道をたどる歩みとすることができます。」（*Gaudete et exsultate*, 31）
- 聖性は務め（すなわち召命、責任、義務）ですが、何よりも、賜物です。聖性は神のいのちにあずかることであり、倫理的に理解し自分の力で到達できると思いきむ完全さではありません。他方、“最もよく準備された”という意味で“最も優れた人々”だけが到達できる目標でもありません。聖性は何よりも、しっかりとした、秘跡を生きる生活と信心を含め、教会の差し出す手段から汲みながら神をお迎えすることです。
- 共に歩むとき、より容易になります。聖性、共に歩むこと、一致の交わりの体験。それは美しいと同時に、要求度の高い歩みです。

## VIII. 聖性に向けてのいくつかの示唆。この旅を歩む若者、そして私たち皆の助けとなるダイナミズム

- **聖霊の実**：愛、喜び、平和、忍耐、親切、善意、誠実、柔和、節制。聖性は、いさかい、論争、妬み、分裂、性急さではありません。「聖性は私たちがより人間らしくないものにするものではありません。聖性は、私たちの弱さと神の恵みの力との出会いであるからです。」（*Gaudete et exsultate*, 34）
- **徳**：悪を退け、善に結ばれるだけでなく、善への情熱を持ち、善を良く行うこと、あらゆる善いことを「良く行う」ことです。「本来の使命を、責任をもって惜しみなく果たすことによって、私たちは聖性のうちに成長します。」（*Gaudete et exsultate*, 26）
- **交わり**：聖性は、共に体験され、共に到達するものです。聖人たちは常に共にいます（男性、女性の両要素さえ統合しながら）。一人の聖人がいれば、そこにはいつもほかの多くの聖人を見いだすことができます。

例えば：

→ カファッソ神父、ドン・ボスコ、マドレ・マザレロ、ロスミニ、バロロ侯爵夫人、グァネッラ神父、ルア神父、シスター・マリア・ロメロ・メネセス、ラウラ・ビクーニャ、セフェリーノ・ナムンクラ、ポズナニの若い殉教者たち、ザッティ修道士、チャルトリスキー、ベルトラミ、ストウクリー、ゼマン、ブラガ……そのほか多くの聖人。

日常生活の聖性は交わりを豊かにし、「人と人の絆を生み出すもの」です。

- **聖霊の創造力と創意工夫の豊かさ。** 聖性は決して繰り返しではありません：サレジオ家族の 31 のグループ - そして認可の過程にあるそのほかのグループは、ドン・ボスコから生まれて豊かに花開き、同じ起源に向かって一つになりながらも、時に非常に多様な感性を表してきました。聖人に倣うということは、そっくりまねることではありません。
- **教会の交わり。** 誰も「パウロに、ケファに、バルナバに」属する人はなく、皆が「キリストのもの、キリストは神のもの」です。サレジオ家族であるということは、ドン・ボスコのメッセージを絶対化することではなく、教会の満ち満ちた豊かさの中に加えることによってそのメッセージを高めることです。ドン・ボスコに求めることのできない事柄もあります。神はほかの人々を通してそれらを教会にお与えになったからです。したがって、それらの事柄はサレジオ以外の聖人、教会の中のほかの霊的伝統に求められるでしょう。このことは、サレジアンとしてアイデンティティーが弱くなるということではなく、教会を、その多様なカリスマを愛する信仰者であるということです。自らの固有の視点から出発し、教会の一員となることを意識しながら。ドン・ボスコ自身、自分より先にあった、この多様性と聖性のポリフォニーから汲みました：例えば、フランシスコ・サレジオだけでなく、イグナチオ・ロヨラやフィリッポ・ネリなど。さまざまな聖性のタイプを横断するこのアプローチは、私たちの聖性の何人かのうちにも見られます：イグナチオ・ストウクリーはイエズス会と親しんでいました；ヴェンドルは初め、フランシスコ会に惹かれていました。ヴェンドラメは収容所でカルメル会との兄弟的交わりを深く体験し、リジューの聖テレジアへの大きな信心をもっていました。
- 聖性としての評判。その [人の] 人生の美しさ、福音的香り、そのメッセージの豊かさの永続的な反響として理解されます。その効果は、目に見える原因と比べて、常にはるかに大きいものです。そのため、“**日常のお隣の聖性**”においてさえ、良い人間関係と友情を生み出す絆、喜びを大切にすることが重要です。

## IX. 今日の聖性への道

- 「本当にそこにある以上の完全さを、聖性のうちにあるとしてはならない」（アドリエン・フォン・スパイヤ）すなわち、英雄的なキリスト者の生き方は、ヒロイズムではありません；キリスト教的完徳は、スーパーヒーローの完全さではありません。
- ある人々が聖なる人々だということはわかりますが、どの人がほかの人よりも聖いかは、私たちには決してわかりません。神だけが人の心をご存じです。すべてのもののうちに特別な美しさがあります。天国に至る道はたくさんあります。その人に

とって可能でないことを求めるべきではありません。このように言うことは、励まし、いやしになります。そうでなければ、多くの人が自分は聖人にはなれないと思ひこむでしょう。なぜなら、模範として示される聖人たちと同じ形で聖人になることは、決してできないからです。

- ですから、“小さなサイズ”（アドリエン・フォン・スパイヤ）であっても、その人なりに完全になれます。

→ すなわち、聖性は決して落胆させるものではありません。聖性を恐れないようにしましょう。「私の父の家には、住むところがたくさんある」。天国は庭のようです：小さなすみれもあれば、見事なゆりやバラもあります。

- **一人ひとりすべての聖人は、肉となった神の言葉です。** 同じ聖人は二人といません。聖人に倣うということは、そっくりまねることではありません。皆、それぞれの時が必要であり、それぞれの道があります。

→ 私は神のどのみ言葉だろうか？

→ それによって私は、何へと呼ばれているのだろうか？

→ 私の隣りにいる若者は、神のどのみ言葉であると私は理解しているだろうか？ それを理解し、生きるために、どのように若者を助けることができるだろうか？

- 聖性はまた、実り豊かさの範疇によっても測られますが、私たちが現代、慣れているように、実際的な効率にもとづいて測るものではありません。

- 聖性は、私たちに責任を与えます。**あなたにしかできないことがあります。** - 「私を離れては、あなたがたは何もできない」。

- 「健全な依存」の体験。聖性の道は献身ですが、決して自己完結ではありません。聖性は共に生きられ、交わりを生み出します。確かに聖人、でも、共に聖人です！ 第一に、聖人は神の傑作です。

- 聖性はしるしを刻むこと、そして他者との結びつきへの実り豊かな依存を体験することです。